



図 53 山野貝塚整備完成イメージパース

## 資料編

### 1 用語集

ここでは本計画書に記載されている考古学及び埋蔵文化財、整備等に関する専門用語について解説します（50音順）。

#### 1 アウトリーチ

博物館が地域の人々や児童・生徒の学習拠点である公民館等の地域や学校へ出かけて行う展示や学習支援活動です。

#### 2 遺跡

過去の人々の活動痕跡を示す遺構（地面を掘削した構築物等の不動産）と遺物（土器などの動産）の総称。貝塚や古墳のように地表に表出しているものの他、地下に埋蔵されているものもあり「埋蔵文化財」とも呼ばれます。現在把握されている埋蔵文化財は「周知の埋蔵文化財包蔵地」と呼ばれ、そこで掘削を伴う開発を行う場合は、文化財保護法により届出を行う必要があります。

#### 3 柄鏡形住居

平面形が円形の堅穴に溝状の張り出し部が取り付けられた住居跡で、その床面の形が柄の付いた鏡に似ていることから、そう呼ばれています。柄のような張り出し部は出入口と考えられています。この形の住居が作られた時期は縄文時代中期末葉から後期前葉までの間に限られ、関東地方と中部地方に多く分布します。

#### 4 AR（エーアール）

Augmented Realityの略。仮想空間の情報やコンテンツを現実世界に重ね合わせて表示することなどにより、現実を拡張する技術や仕組みです。

#### 5 貝塚

遺構の種類の一つで、主に過去の間人が食べた貝を廃棄したままとりの総称。台地上の遺跡では溶けてなくなってしまう動物の骨などの自然遺物が残され、過去の人々の食生活などをよりよく知ることができます。遺構等に廃棄されたそれぞれの貝のままとりについては「貝層」と呼びます。

#### 6 環状集落

縄文時代前期以降に、東日本を中心に発達し

た集落形態。集落の中央を広場とし、その周囲にお墓や住居などを円形に配置します。地域の拠点集落に認められることが多いです。

#### 7 骨角歯牙製品

動物の骨や角、牙を素材として利用した道具です。ヤスや銚先など刺突具の他、耳飾やかんざし、腰飾りなどの装飾品など、多くの製品が見られます。

#### 8 史跡

文化財保護法で規定された文化財の一つの種類である記念物の内、貝塚、古墳、都城などの遺跡で、歴史上又は学術上価値の高いものについて文部科学大臣が指定するものです。その中でもとくに重要なものは「特別史跡」となります。史跡に指定されると史跡の現状変更を行う場合は許可制となり、保護が図られます。

#### 9 縄文海進

今から1万年以上前の最終氷期以降の地球規模の気候の温暖化に伴い、北半球に発達していた氷河が溶け、海面が上昇した現象を指します。約7000年前頃になると、海面が現在よりも2～3メートル高くなり、日本列島の各地で海水が陸地奥深くへ浸入し、複雑な海岸線をもつ入江が形成されました。その後の海面の低下に伴い、入江に干潟が形成され、貝塚が多く作られるようになり、海産資源の利用が活発化していきます。

#### 10 縄文時代

最新の自然科学的年代測定によると、今から約16,000年前から2,500年前にかけて、日本列島に展開された狩猟採集を主な生業とし、土器の出現から稲作の開始までの時代に相当します。土器型式（土器の形や文様等を基にした分類で、時間の物差しや地域のまとまりを表す）に基づき、「草創期」「早期」「前期」「中期」「後期」「晩期」の6時期に大別されます。

山野貝塚は、中期末葉加曾利E式期から土器が出土するようになり、後期前葉堀之内式期に最盛期を迎え、晩期中葉前浦式期まで集落が営まれたと考えられます。

#### 11 石器・石製品

石を素材とし、加工や使用による人為的な痕跡が認められる道具で、剥片石器（石を打ち欠いた

破片を素材として加工した石器<sup>れき</sup>）と礫石器（礫をそのまま利用して加工、使用した石器）があります。前者は、狩猟に利用された石鏃<sup>せきぞく</sup>、動物の解体に利用された石匙<sup>いしきじ</sup>、土堀具と考えられる打製石斧<sup>だせいせきふ</sup>、木の伐採、加工に利用されたと考えられる磨製石斧<sup>ませいせきふ</sup>などがあります。後者は、植物を加工した磨石<sup>すりいし</sup>、石皿<sup>いしざら</sup>、モノを研いだ砥石<sup>といし</sup>などがあります。

また、実用品ではなく、お祭りに利用されたと考えられる、石棒<sup>せきぼう</sup>、石剣<sup>せっけん</sup>、独鈷石<sup>どっこいし</sup>などもあります。

## 12 竪穴住居跡

地面を掘りくぼめて平らな床面をつくり、その上に屋根をかけた構造を有する建物。縄文時代の竪穴住居跡は、床面に柱穴、炉などが見られます。

## 13 中央窪地型集落

集落の中心部が窪み、その周囲に高まりが巡る集落形態で、縄文時代後期以降の関東地方に特徴的に認められます。周囲の高まりから住居等の遺構が発見される一方、中央窪地から遺構が検出される例は少ない傾向にあります。また、中央窪地内からは晩期の遺物が多く出土する傾向があります。中央窪地の形成要因として、人工的に掘り窪められたとする説がある一方、自然地形によるものとする説もあります。

## 14 土坑・ピット

地面を掘りくぼめた穴の総称。一般的に大形のものを土坑、小形のものをピットと呼んでいます。土坑の用途として、食物を蓄える貯蔵用の穴やお墓などがあります。

## 15 土製品

粘土を素材としてつくられた道具で、代表的なものとしてお祭りに利用されたと考えられる土偶<sup>どぐう</sup>や装飾品として利用された耳飾<sup>みみかざり</sup>があります。漁網の重りとして利用されたと考えられる土器片錘<sup>どきへんすい</sup>という、土器片を二次利用した道具もあります。

## 16 発掘調査

周知の埋蔵文化財包蔵地において、地面を掘削し、遺跡の内容を把握するために実施する調査。行政が埋蔵文化財保護のために行う発掘調査として、保存目的調査と記録保存調査があり

ます。

保存目的調査は、重要と思われる遺跡の現状保存を目的として、遺跡の内容や範囲を把握するために行います。

一方、記録保存調査は、開発事業に伴い現状保存が不可能な埋蔵文化財の記録を作成するために

行います。発掘調査の方法として、遺跡の内容や広がりを確認するための「確認調査」と確認調査に伴い遺構、遺物が発見され、現状保存が不可能な際に実施される「本調査」があります。

## 17 VR（ブイアール）

Virtual Realityの略。コンピュータによって創り出された仮想的な空間などを現実であるかのように疑似体験できる仕組み。

## 18 盛土遺構

遺跡内に形成された高まりの内、人為的に移動されたと考えられる土層を含む遺構を指します。高まりの形成要因として、人為的な盛土の他、居住施設の累積によるもの等との考えもあります。

## 2 引用・参考文献

### ○山野貝塚に関する文献

- 1 横山将三郎 1931「上総国小櫃川流域に於ける石器時代遺跡に就いて」『史跡名勝天然記念物』第6集第1号 千葉県 14～29頁
- 2 野村幸希他 1973『袖ヶ浦町山野貝塚』（財）千葉県土地公社
- 3 大場磐雄 1977『大場磐雄著作集第八巻 楽石雑筆（下）』雄山閣出版
- 4 山田常雄 1985「第3章 縄文時代」『袖ヶ浦町史』通史編上巻 袖ヶ浦町史編さん委員会 111～148頁
- 5 山本哲也 1989「君津地方の土偶」『君津都市文化財センター研究紀要』Ⅲ（財）君津都市文化財センター 1～17頁
- 6 上守秀明 1993『袖ヶ浦市山野貝塚発掘調査報告書』千葉県文化財保護協会
- 7 山田常雄 1999「18 山野貝塚」『袖ヶ浦市史資料編1 原始・古代・中世』57～60頁
- 8 上守秀明 2000「山野貝塚」『千葉県の歴史 資料編考古1』（財）千葉県史料研究財団 786～789頁
- 9 光江 章・井上 賢 2004「Howard A. MacCord (Howard A. MacCord) 資料」『千葉県の歴史資料編 考古4』（財）千葉県史料研究財団 1284～1319頁
- 10 水嶋崇一郎他 2006「縄文時代人骨データベース 3) 千葉県の遺跡（堀之内、加曾利、曾谷など）」『東京大学総合研究博物館標本資料報告』第61号 東京大学総合研究博物館
- 11 酒詰治男編 2008「酒詰仲男 調査・日録 第1集」『東京大学総合研究博物館標本資料報告 第72号』
- 12 小澤清男 2011「千葉県の独鈷石・独鈷石形土製品（3）一追加報告ならびに形態分類と編年の予察一」『貝塚博物館紀要』第38号 千葉市立加曾利貝塚博物館 63～115頁
- 13 上守秀明 2011「袖ヶ浦市山野貝塚についてー千葉県貝塚研究におけるその位置づけー」『袖ヶ浦市史研究』15 袖ヶ浦市郷土博物館 7～41頁
- 14 西原崇浩 2011「山野貝塚（角山遺跡第2次調査・伊丹山遺跡第2次調査）『平成22年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』袖ヶ浦市教育委員会
- 15 桐村久美子 2012「第5章 山野貝塚第3次調査」『平成23年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』袖ヶ浦市教育委員会
- 16 田中大介 2013「第5章 山野貝塚第4次調査」『平成24年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』袖ヶ浦市教育委員会
- 17 田中大介 2013「第7章 山野貝塚第5次調査」『平成24年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』袖ヶ浦市教育委員会
- 18 田中大介 2014「第6章 山野貝塚第6次調査」『平成25年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』袖ヶ浦市教育委員会
- 19 田中大介 2014「第4章 山野貝塚第7次調査」『平成26年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書』袖ヶ浦市教育委員会
- 20 田中大介編 2016『山野貝塚総括報告書』袖ヶ浦市教育委員会
- 21 袖ヶ浦市教育委員会 2016『山野貝塚パンフレット』（2018年に改訂版刊行）
- 22 袖ヶ浦市郷土博物館 2018『平成29年度特別展 山野貝塚のヒミツを探る 展示解説書』
- 23 袖ヶ浦市教育委員会 2018『山野貝塚国史跡指定記念シンポジウム 山野貝塚から縄文時代の貝塚を探る 資料集』
- 24 袖ヶ浦市教育委員会 2019『平成30年度 山野貝塚講演会 山野貝塚から縄文時代のムラと社会を探る 発表要旨』
- 25 袖ヶ浦市教育委員会 2019『山野貝塚国史跡指定記念シンポジウム 山野貝塚から縄文時代の貝塚を探る 記録集』
- 26 袖ヶ浦市教育委員会 2019『平成30年度 山野貝塚講演会 山野貝塚から縄文時代のムラと社会を探る 記録集』
- 27 袖ヶ浦市教育委員会 2020『令和元年度山野貝塚講演会 周辺地域の遺跡から山野貝塚の特徴を探る 発表要旨』
- 28 袖ヶ浦市教育委員会 2020『国史跡山野貝塚って何だろう？』（子ども向けパンフレット）
- 29 袖ヶ浦市教育委員会 2020『袖ヶ浦市国指定史跡 山野貝塚保存活用計画書』
- 30 袖ヶ浦市教育委員会 2021『令和2年度山野貝塚講演会 山野貝塚のこれからを探る 発表要旨』
- 31 袖ヶ浦市教育委員会 2021『令和元年度山野貝塚講演会 周辺地域の遺跡から山野貝塚の特徴を探る 記録集』
- 32 袖ヶ浦市教育委員会 2022『令和3年度山野貝塚講演会 山野貝塚のこれからを探る 発表要旨』
- 33 袖ヶ浦市教育委員会 2022『令和4年度山野貝塚講演会 山野貝塚とは何だったのか 発表要旨』

### ○縄文時代の海岸線復元に関する文献

- 34 吉村光敏 1985「第一編 土地のすがたとそのな

- りたち』『袖ヶ浦町史』通史編上巻 袖ヶ浦町史編さん委員会 3～48頁
- 35 小林清隆 1998『木更津市水深遺跡』(財)千葉県文化財センター
- 36 鈴木良征他 2001『木更津市四宝塚遺跡』(財)千葉県文化財センター
- 37 高梨友子 2001『木更津市四房遺跡』(財)千葉県文化財センター
- 38 竹内順一 2004『松山遺跡』(財)君津都市文化財センター
- 39 田中大介(編) 2015『水神下遺跡発掘調査報告書』袖ヶ浦市教育委員会
- 40 田中大介 2017『水神下遺跡』袖ヶ浦市教育委員会
- 41 (財)日本地図センター発行『迅速測図原図復刻版』762(4班13号1測版)
- 42 (財)日本地図センター発行『迅速測図原図復刻版』763(4班13号3測版)
- 東京湾岸における縄文時代後期の遺跡分布図作成等に関する文献
- ・地形復元に関する文献
- 43 小杉正人 1989「完新世における東京湾の海岸線の変遷」『地理学評論 Ser. A』日本地理学会 359～374頁
- 44 貝塚爽平編 1993『東京湾の地形・地質と水』築地書館
- 45 (財)千葉県史料研究財団 1996『千葉県の自然誌 本編1 千葉県の自然』
- 46 工藤孝浩 1997「魚類」『東京湾の生物誌』築地書館 115～142頁
- 47 袖ヶ浦市史編さん委員会 1999『袖ヶ浦市史 自然・民俗編』
- 48 (財)千葉県史料研究財団 2000『千葉県の歴史資料編 考古1』
- 49 さいたま市立博物館 2006『第18回企画展 さいたまの縄文時代～まずは後晩期から～』
- 50 品川区立品川歴史館 2007『日本考古学は品川から始まったー大森貝塚と東京の貝塚ー』
- 51 (財)かながわ考古学財団 2010『掘り進められた神奈川の遺跡』
- 52 神奈川県教育委員会他 2015『平成27年度かながわの遺跡展・巡回展 縄文の海 縄文の森』
- ・遺跡分布に関する文献
- 53 金子浩昌他 1958『館山鉾切洞窟の考古学的調査』早稲田大学考古学研究室
- 54 金子浩昌他 1964『富士見台(犬吠)貝塚』千葉県教育委員会他
- 55 祇園貝塚調査団 1970『千葉県文化財調査抄報第4集 祇園貝塚発掘調査概報』千葉県教育委員会
- 56 小宮 孟 1979「魚類および貝類遺体」『千葉東南部ニュータウン7ー木戸作貝塚(第2次)ー』(財)千葉県文化財センター 372～456頁
- 57 石田広美 1980『君津広域水道用水供給事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 角山遺跡 深城遺跡 飯富遺跡 苗見作遺跡』君津広域水道企業団
- 58 金子浩昌・牛沢百合子 1980『貝塚出土の動物遺体』貝塚博物館研究資料3 千葉市加曽利貝塚博物館
- 59 金子浩昌・忍沢成視 1986『骨角器の研究 縄文篇Ⅱ』慶友社
- 60 實川 理他 1988『花山遺跡』(財)君津都市文化財センター
- 61 野口行雄 1988『蓮華寺遺跡』(財)君津都市文化財センター
- 62 稲葉昭智 1990『千葉県木更津市市内遺跡群発掘調査報告書ー伊豆島貝塚・宮脇遺跡ー』
- 63 能城秀喜 1990「袖ヶ浦町宮ノ越貝塚について」『千葉文華』25 千葉県文化財保護協会 1～29頁
- 64 西原崇浩 1994『嘉登遺跡・大竹古墳群』(財)君津都市文化財センター
- 65 松本 勝 1994『蓮華寺遺跡Ⅱ』(財)君津都市文化財センター
- 66 稲葉昭智 1995『大竹遺跡群Ⅳー向神納里遺跡・上南原遺跡・狐谷遺跡・大竹古墳群ー』(財)君津都市文化財センター
- 67 安藤道由 1995『台木A遺跡』(財)君津都市文化財センター
- 68 山形美智子 1997『千葉県木更津市蓮華寺遺跡Ⅲ』(財)君津都市文化財センター
- 69 加納 実 1998『木更津市峰ノ台貝塚発掘調査報告書』(財)千葉県文化財センター
- 70 樋泉岳二・西野雅人 1999「千葉市矢作貝塚の動物依存体分析」『研究紀要』19(財)千葉県文化財センター 82～123頁
- 71 樋泉岳二・西野雅人 1999「縄文後期の都川・村田川流域貝塚群」『研究紀要』19(財)千葉県文化財センター 151～171頁
- 72 井上 賢 2000「永井作貝塚」『千葉県の歴史 資料編考古1』(財)千葉県史料研究財団 794～795頁
- 73 上守秀明他 2000「伊豆山台遺跡」『木更津市文化財集報』4 木更津市教育委員会 602～605頁
- 74 能城秀喜 2000「祇園貝塚」『千葉県の歴史 資料編考古1』(財)千葉県史料研究財団 790～793頁
- 75 梅本洋平 2002「宮ノ越貝塚の表面採集資料について」『袖ヶ浦市史研究』10 袖ヶ浦市郷土博物館

- 100～112頁
- 76 西野雅人 2004「(1) 貝塚」『千葉県の歴史資料編 考古4』(財)千葉県史料研究財団 190～209頁
- 77 吉野健一他 2006『東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書7 君津市三直貝塚』(財)千葉県教育振興財団文化財センター
- 78 忍澤成視他 2007『市原市西広貝塚Ⅲ』市原市教育委員会
- 79 西野雅人 2007『千葉東南部ニュータウン37—千葉市六通貝塚—』
- 80 西原崇浩・田中大介 2009『嘉登遺跡(2)』袖ケ浦市教育委員会
- 81 小倉和重他 2010「井野長割遺跡総括報告書」『平成21年度佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書 井野長割遺跡—第73次調査報告書・総括報告書—』佐倉市教育委員会
- 82 高田 博 2010『木更津市土器崎遺跡』(財)千葉県教育振興財団文化財センター
- 83 安井健一 2010『首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財報告書 袖ケ浦市上宮田台遺跡2(旧石器・縄文時代)』(財)千葉県教育振興財団文化財センター
- 84 樋泉岳二 2013「動物資源利用からみた縄文後期における東京湾東岸の地域社会」『動物考古学』30 動物考古学会 3～17頁
- 85 村田六郎太 2013『加曾利貝塚』同成社
- 86 山田貴久 2013『千葉県袖ケ浦市角山遺跡』(財)千葉県教育振興財団文化財センター
- 87 樋泉岳二 2014「貝類・魚類遺体」『大膳野南貝塚 第Ⅲ分冊—本文編—』千葉市教育振興財団他 953～1020頁
- 88 袖ケ浦市教育委員会 2018「宮ノ越貝塚」『平成29年度袖ケ浦市内遺跡発掘調査報告書』
- 95 市原市 2020『国指定天然記念物養老川流域田淵の地磁気逆転地層整備基本計画』
- 96 袖ケ浦市 2020a『袖ケ浦市総合計画』
- 97 袖ケ浦市 2020b『袖ケ浦市鳥獣被害防止計画』
- 98 袖ケ浦市 2020c『袖ケ浦市都市計画マスタープラン』
- 99 袖ケ浦市 2020d『袖ケ浦市道路網整備計画2020』
- 100 袖ケ浦市 2021『袖ケ浦市民便利手帳』
- 101 袖ケ浦市教育委員会 2021『第三期袖ケ浦市教育ビジョン(袖ケ浦市教育振興基本計画)』
- 102 酒々井町教育委員会 2022『千葉県印旛郡酒々井町史跡墨古沢遺跡整備基本計画書』

## ○その他の文献

- 89 袖ケ浦市植物相調査団編 1999『そでがうらの植物—緑の再発見』袖ケ浦市環境経済部環境保全課
- 90 文化庁文化財部記念物課監修 2005『史跡等整備のてびき 保存と活用のために』
- 91 袖ケ浦市 2010『袖ケ浦市景観まちづくり基本計画』
- 92 文化庁文化財部記念物課 2015『史跡等重要文化的景観マネジメント支援事業報告書』
- 93 文化庁文化財部監修 2017『月刊文化財』9月号
- 94 文化庁文化財部監修 2019『月刊文化財』2月号